

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311



教祖120年祭を目指し、
道の後継者の育成を念頭に邁進しよう。

崇修・高校の部

去る8月9日から15日まで、親里において、立教165年学生生徒修養会・高校の部が開催されました。受講生は昨年とほぼ同数の173²名(昨年173⁴名)が修了しました(講師・カウンセラー等のスタッフは570名)。大教会からは15名(男子11名・女子4名)が参加してくれました。この誌面をおかりして彼らの感想文を紹介したいと思います。

(学生担当委員長 吉岡 誠一郎)

◎橋本佳奈(國須) 高校3年生3回生

私は3年間、学修に参加させていただきました。3回生は2回生と違い、天理教の信仰を学ばせていただく機会が多く、とても忙しかったです。1週間の短い間でしたが、その1週間で色々なものを見せていただきました。私は身上をいただき、自分を見つめ直すことが出来、班の人たちにとっても見つめ直すことが出来たようです。私はこの1週間で今までの学修では味わえなかったものを味わえ、3回生まで参加したことを誇りに思います。



◎岩坂瑛治(米府) 高校3年生1回生

今回、友達の誘いで「学生生徒修養会」に参加させていただきました。もうとにかくサイコーでした。この貴重な体験は一生忘れません。自分は天理教を信仰していない身なので、この学修に参加してもいいのかなあ?なんて思っていました。すごく不安を抱えたまま「あらかき寮」に行き、

部屋に着いた時、ある男の子が「こんにちはー!」と声をかけてくれ、自分の不安がその一言でいっきにふきとびました。それからはみんなでノビノビと楽しく過ごしました。学修では「レクチャー」「おつとめ勉強」「ひのきしん」などたくさんおもしろい企画がありました。どれも楽しいイベントでした。女の子ともすごく仲良くなり、学校の友達よりも学修で知り合った友達の方がスゴイよかったです。カウンセラーの方々や講師の方々も天理教の事を全く知らない自分をあたたかく迎えてくれました。まだ学修が終わったなんてゼンゼン実感がないです。あと、またこんな機会があったら是非参加したいです。この学修で会ったみんな、それとお世話になった方々、本当にありがとうございます!!!そして天理教サイコーです!!!

◎北川祥江(稲倉) 高校2年生2回生

本当に楽しくてあっとい間に終わった。「はっぴすと」の密着取材とか「全体の集い」に出たりで、けっこう忙しかったけど楽しかった。やっぱり学修は最高だ。短い間でこんなに仲良くなれて、感動できる事は他にないと思う。来年もまた参加したい。

青年会総会を終えて

九月一日(日)、青年会全分会布教推進週間の初日に総会を開催させて頂きましたが、総会を開催するにあたって青年会本部の委員さんに打診したところ、総会願書提出を控えるよう助言がありました。しかし、青年会の本分は本来布教と求道にあることを会員さんに認識してもらい、布教推進という新委員会の方向性を打ち出すために、あえて布教推進週間の初日に総会を開催させて頂きたいと思い、無理を承知で総会願書を持参し、総勢一四名で自転車団参りに臨みました。結果、全員完走でおちばに到着し、皆で青年会本部に総会願書を提出したところ、後日副委員長さんより電話があり『どうしてもこうでもと、押しての願い受けとらせて頂きました。総会開催の方向で話を進めて下さい』との事でした。

このようないきさつで、青年会本部に無理を願

いので承諾を得たわけであり、是非とも総会を意義あるものとするために、委員会の活動として全ての教会に足を運ばせて頂き、総会の意義の徹底と、布教推進週間を各分会とも意義あるように活動されるべく活動計画書の提出のお願いに回らせて頂きました。結果、数の上では例年を大きく上回る計画書を提出して頂きましたが、計画書の提出という動きから実動へ、そしてさらに大きな動きへとつながっていくことを願わずにはおられません。

さて、総会の大教会長様の祝辞の中で、短期間の準備の中で総会が開催された事への^{ねぎらい}の言葉と祝辞を戴きましたが、反面「あらきとつりょう」としての青年会員の皆さんらしく、もっと荒々しくみえるような面もあっていいのではないが、勢いがみえてきていいのではないか、一見おとなしくまとまっているように思えるふしがある」というお話を頂きました。数年前の風潮として指示待ち人間が増えているという言葉が聞かれていましたが、指示を待つてその通り動いて終わりというのではなく、自らをしっかりとみつめて、自らで判断し、次に何をしていくかという事が大切であると思います。あらきとつりょうとして未開拓な荒野へ足を踏み入れていく事も大切です。心を素直にその方向へ向けていく事も大切です。



しょう。しかしその過程として今の自分はどうなのか、どのように一歩足を踏み出すべきか、日々の求道の中から答えを導いていきたいと思えます。

(青年会委員 小西陽司)

フリーマーケット開催所感

先日大教会の祭典後に第一回目のフリーマーケットを開催しました。大教会長様よりその企画を依頼され青年会を窓口として行いました。まずは一応の規約を整え青年会ほか三組から出店させて頂きました。アンケートなど取っていないので反応はハッキリとは分からないものの、掘り出し物や、格安で提供されたものなど一部では瞬間に完売した商品もありました。新品中古品問わず売り手と買い手がコミュニケーションを取りながら値段を決められるので、バザーよりは高めでもいい物があるという利点があります。又利益も出店者の物というの魅力であります。そもそもこの企画の狙いは「物を大事に活用する」という事と「参拝された方の掘り所に新しくなったピロティアーを自由に活用していこう」という事だと私は認識しております。又後には若年層とのコミュニケーションを



図っていきけるのではないかと思います。詰所にて25日夜に売店を開いておりますが、一番の収穫は若者が寄り集まる場所になっていることです。先日6・7名の十代の若い子達が青年会布教推進のキャラバン隊に連日参加してくれましたが、彼らはこの売店で知り合い売店を手伝ってくれた子達でした。このことからコミュニケーションがいかに大事かと思えます。これからも大事な角目を忘れずに工夫を重ねてフリーマーケットを開催していきたいと思えます。尚出店希望者を募集しております。大教会神事所に設置してあります書類にお書きの上お申し込み下さい。又青年会では携帯電話及びパソコンからのウェブサイトも開設しておりそちらからの受付も可能です。個人でも各会でも遠方の方でもどうぞお気軽にご参加下さい。
<http://www.h3.dion.ne.jp/~tktk/saoka/top.htm>
 (青年会委員 本多正悟)

修養科修了生の声

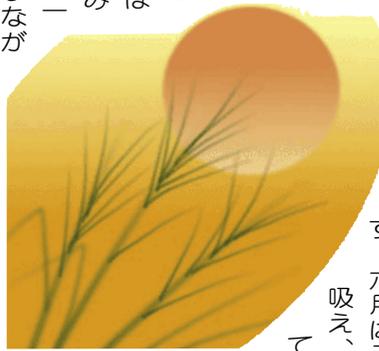
修養科を終えて

大教会直轄 斉藤 務

私が、天理教を意識し始めたのは、二十五年前の父の死後からだと思います。以前より母は、天理教を嫌っていた父に隠れて教会に参拝を続けていました。私も子供を授かって、おびやをいただきにおぢばには帰ったりしていました。が、信仰には程遠いものでした。

十五年前、私は身上をいただきました。全然食べ物を受けつけなくなりみるみるうちに何キログラムも痩せていきました。病院に行き診察してもらい胃力メラを飲みました。結果は胃力イヨウでした。約一年間薬を飲みながら、タバコを止め、その間は、二〜三回胃力メラを飲みました。通院しながらも仕事はしていました。が、食事をおいしいと思ったことはなく、やっとのどを通している状態でした。母も妻もすっかり困っていました。

ある日、母が天理に参拝に行こうと誘いました。食事も十分取っていない身には、きつかったけど、



本部に参拝し、詰所に泊まって朝の食事をいただいた時、本当に久し振りにおいしく食べることが出来ました。これが、おかげというものののだと、おぢばは何と良い所だろうとこの時つくづく感じました。それからまもなく母は、私の為に修養科を志願してくれました。七十歳を越えての三ヶ月は厳しかったと思いますがそのお陰で私もすっかり元気になることが出来ました。

このたび店を閉めることになり、今まで延ばしていた恩返しをしなくてはと思い、修養科を志願しました。修養科生活も初めの一週間は、早起きやおつとめ、ひのきしん、修練と今までのだらくな生活とは一変したのでとてもきつかったです。六月に入り、学校も始まり、外の空気も

吸え、生活の変化にも身体も慣れてきて少しづつ楽になりました。一ヶ月、二ヶ月と過ぎてみると、色々な行事に追われ長いようで短かったように思われます。自分なりに暑い中を一生懸命ひのきしんさせてもらい決められた行事や授業を欠席することなく出来たのも親神様、教祖様の御守護のお陰と感謝しています。

私がおぢばはすごい所だなあと感じた事がありました。二ヶ月目に、食堂で赤いバッジの修養科生が食事がノドを通らず、ごはんを口に入れたまま、頭をかかえて苦しんでいるのを見ました。と

ころが私が修了を目前にしていたある日、偶然に彼をまた食堂で見かけました。そのとき彼は、パクパクおいしそうに何もなかったように食事をしていました。これが御守護なのだ、つくづくありがたさを感じました。この光景を見て自分の信仰が誤っていないことを強く感じました。修養科での三ヶ月が、これからの人生に生かされるよう教祖のひながたを手本として自分なりに精一杯頑張ろうと思います。

全教一斉にいがけデー提唱70周年 布教アラカルト

私の布教行路

国里布教所長(國須) 河田 和江

修養科を出て、にをいがけを始めた時、人目をさげ、夜中にポストへパンフレットを入れて歩くことから始め、自分の心の中で、これではダメと思うようになり、昼間にポストへ入れるようになり、又これではダメと思い、やっとな、呼鈴を押し「天理教の者ですが」と戸別訪問ができるようになっていきました。

今思えば、いんねんの自覚のできていなかった私の将来を見抜かれた親神様・教祖が私の成人に

応じておつれ通り頂いた「にをいがけ・おたすけ」の道中であつたと思います。

訪問先で「天理教って、どんな教え？」と聞かれ、まともに話すことのできない私でしたが、布教を続けました。「あなたより私の方が何十年も生きとるんだ。あなたに教えてもらうことは何もない」とよく叱られ、心をたおしていた時、今は亡き國須の前会長 橋高キ又三様は「人生は長く生きておられ、色々経験はしておられるでしょうが、天理のおしえを先に聞いて信仰しているという立場から話を聞いて頂け」とお仕込み下さり、又お道を通る上で、「天理の信仰を何十年もし、修養科・講習も修了し、何十年も教会へグタがちびるほど日参し、天理の教えは、よくわかっているが、ひとつもおかげがないと言う者があるが、頭でわかっているもダメだ。ひながたを少しでもたどり『にをいがけ・おたすけ』をしなければ、真に神様をつかみ、『かしもの・かりもの』の理、『病の元は心』ということもわからないし、わが家のいんねん・地癖性を切り替える心の成人はできない」と厳しくお仕込み下さいました。

そして、若くして身上を頂き、やっと、わが家のいんねんを自覚した時、「じつとしていては助からん、回る」マは、たおれないの如く、にをいがけ・おたすけに歩け」とお仕込み下さり、大手術の告知を受けましたが、その時より医者と縁を切り、橋高会長の声を神の声とし、身上で時には、体重もかなり減少し、食べ物ものを通らない中、

歩き続けて今年で身上を頂いて16年間生かされていきます。

しかし、その道中の厳しいお仕込みに橋高キ又三という人が都合のいいように言っていると思いつつも不足をしました。橋高キ又三という人を通して、親神様・教祖が私の将来を思い助けてやろうとの親心であつたことに、その当時は思えませんでした。

その後「にをいがけ・おたすけ」をし理の親となるにつれ、深い親心がわかり始めました。

今理の子も私がああ頃、橋高会長に思っていた時のように、「河田和江が自分の都合のいいように言っている」と時に反発し、成って来る姿に少しずつ親の思いをわかり、通ってへれている人もいます。ですから、親の思いは、「人を助けて我が身助かる」道中を通らなければ、わかりませんでした。

あのまま、橋高会長を不足し、挫折していたら、親神様・教祖・理の親・家族・生きてゆく中で出会った人々に恩になりっぱなしで、恩返しせず、「ぶし」に出会っても苦しんでばかりで、心の切り替えがでず、真の陽気べらしを知ることもなく出直していたかと思うと、今は亡き國須分教会前会長様の御恩を一日たりとも家族共々忘れることはできません。

私自身「病の元は心から」にたどりつくまで、



頭で聞いてはいても、心より理解できたのは、歳月がかかりましたが、しかし、私は成人がにぶく、「のどもとすべれば熱さ忘れる」ので、時々神様からメッセージを頂いています。

そして、住む家の隣・近所どこに引越しても、又にをいがけ・おたすけ先も、身元調査して行くのではありませんが、不思議とわが家のいんねんと似た方ばかりがおられ、時におそろしくなることもありますが、いくら嫌われても毎月訪問し、

今では、件数も多くなり訪問先も大変な家数となりましたが、いくら玄関先で、ことわっておられた方でも、突然「助けてほしい」と電話きたり、知人より、こんな方がいるから助けてあげてと一緒に参拝して下さいたり、初めて出会った方に天理の話をしたら、

その日から日参をして下さり、トイレ掃除を続けて下さり、家族の反対の中十年間かけて別席を運び、用木となり、月次祭をつとめて下さる方もお与え頂いたり、病院に知人のお助けに行き、隣の人が、流産後出血が止まらず、明日、子宮を摘出するというので、おさづけを取り次ぎ、すべ御守護頂いて下さった方、子供おぢば帰りへ行つて下さった子供さんには、学修へ参加して頂いたり、その中から初席を運んで頂いた方が、今年天理大学受験を希望して下さいたり、不思議・

不思議をお見せ頂いております。

嫌われても、いつどこにいても、「にをいかけおたすけ」の心を持ち続け、常にカバンにはパンフレットと、「くを持ち歩き、お助けに出れない身上が重たい日は、電話布教、文章布教と一言話は、心のきしん、にをいばかりをかけておく」その心を持ち続け通らせて頂いております。

ですから我が家では、小さい時から子供を布教につれて歩いてきたことで、現在大学生の娘、高校生の息子、小学生の娘は、戸別訪問がそれぞれ、できるまでに成人してくれております。

そうした家族ぐるみでの道中が、一番大切だと信じ、まず外のにをいかけ・おたすけも大切ですが、一番は我が家からと思い日々を通らせて頂いております。

異教徒から見た天理教

高屋分教会長 武内 正美

七月初旬、里の父から電話が入った。

「笠岡の大教会長さん、すごいナー、新聞に載ってるよ。」との事——詳しく聞くと、女性画家で尼さんである渡辺妙法さんという方が「愛は、地球を救う」というテレビの募金キャンペーンにこたえて、北九州から東京までの千二百キロの托鉢の旅を「尼さん托鉢日記」と題して、読売新聞

に掲載している。

その尼さんが笠岡大教会に宿泊した時の様子が、書いてあるとの事。——そして父曰く。夫人がふすま越しに「ご不自由はございませんか」——「ここがまたいいね。——お前だったら、ふすまをパーンと開けて尋ねるだろうが……(失礼しちゃっわ)

早速、新聞を切りぬいて、「コピーしたものを送ってくれた。

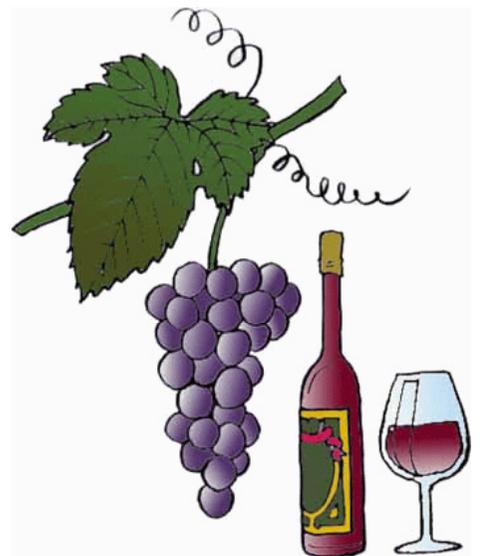
大教会長様ご夫妻のお人柄、底なしの親切、教えの実践が、この方の心を動かしたのだろう。

それからと言うもの、妙法さんは、東京に着くまで、随分たくさんの教会に泊めていただき、その都度味わった、人々の心の温かさ、教えの素晴らしさを、素直に日記体で連載していたとの事である。

大きな、にをいげになったことと思う。

私も、教会長のお許しを頂いて早や六年。始めは、「会長さん」と呼ばれることに戸惑いを感じ、すぐに返事が出来なかつた。しかし今は、信者さん、部内の会長さんから、「会長さん」と呼ばれても、何の抵抗もなく返事が出来、時には、茶目っ気たっぷりにポーズまで付けることもある。

先日、町内の寄り合いに出た時のこと。少し顔見知りの方から、「会長さん」と呼ばれてドキッとした。教会に入りにされている人ならともかく——こんな場では私は、「武内さん」でいた。その方が気分は楽だった。



しかし、私は「武内さん」だけで天理教会の会長さんなんだと、自分の言葉、態度の重さを感じた。「世界は未だ争いの絶え間なく、飽くなき欲望は生命の母体である自然環境をも危うくして、人類の未来を閉ざしかねない。人々は、我さえ良くば今さえ良くばの風潮に流れ、また、夫婦、親子の絆の弱まりは社会の基盤を揺るがしている。まさに今日ほど、世界が確かな拠り所を必要としている時はない。」

論達第一号にこめられた、を、やのおもいがひしくと胸に迫ってくる。

そして、今月は、提唱七十周年を迎える、全教一斉にをいげデーの月。

おやさまのお伴で歩かせて頂くにをいげ。

おやさまにお喜びいただけるよう、明るく力強くつとめさせて頂きたい。

尼さん托鉢日記

挑戦・北九州～東京1200キロ



この記事は、本年七月二日、読賣新聞筑豊版に掲載されたもので、(<http://kyushu.yomiuri.co.jp/spe-2/amamaat0.htm>)からの転載です。

異教との出会い、温かく

■6月12日(続き)

午後四時過ぎ、笠岡市に入って間もなく、道沿いに「天理教笠岡大教会」の看板を見る。宿をお願いすると、快く受け入れてくれた。最初に決まっ

入れられる。なんだか、変な気持ち。

上原理一・大教会長は、「人を大切にするのは、人として当たり前のこと。『人をたすけて、我が身たすかる』『一列兄弟』という教えを実践しただけ」と、こだわりも気負いもない。

午前五時半に尾道をたつて約十一時間約三十キロ。ほとんど歩き詰めの日。国道2号線は、車が横を通るだけ。人の通りはない。人と話すのは、ガソリンスタンドでトイレを借りる時くらいだった。

信者用の食堂で、キュウリの酢物、ホウレンソウとモヤシのいため物、魚と大根おろし、ご飯を頂く。用意された八畳の間には、テレビと扇風機があった。入浴後、足をもんでみると、夫人がふすま越しに、声をかけてきた。

「ご不自由はございませんか」

明日の行程を尋ねられ、「倉敷まで」と答えると、「倉敷の天理、当たってみましょう」と言い、下がった。

午後九時、就寝。

■6月13日

天理教会の朝は早い。午前四時から掃除が始まる。五時に、みそ汁とご飯、たくわんの食事を頂く。

上原夫妻を煩わせては悪いと思い、大教会長宅に寄らずに、午前五時半、教会を出発。

約三十分ぐらいたって、後方から来た乗用車が止まった。上原夫妻だった。

「倉敷の天理にお願いしていますから」と、地図四枚を渡された。倉敷市の窪屋分教会までのルートが、わかりやすく記されていた。さらに「昼食代でも」と、白い小封筒に入った三千元。本当に、何と言ったらいいのか。前夜遅くまでかかって、手配し、パソコンで地図まで作ってくれていたのだ。

「ありがとうございます」幾度も礼を言い、去っていく車に深々と頭を下げた。

上原会長は話す。「人間は、人を苦しめれば、来世で自分が苦しむことになる。今だけ、現世だけを考えていては、本当の幸せはない」と。

談話室



最近思うこと

上下分教会 山野季彦

今年の夏は、年のせいも異常気象のためか非常に暑い毎日であった。「夏の教職員集い」「笠岡大教会での英会話講習会」「広島教区で毎年行っている常緑塾」は、私たち夫婦にとってきわめて大切な行事であり、日々夫婦共に子供の世話に明け暮れている私たちにとって、未婚者の子弟への伝導教育として極めて重要な行事と受け止めている。本部主催の「道の教職員の集い」は同じ立場にある教職員が胸襟を開いて信仰を確認しあう場であると共に、時代を反映した研修の場でもある。今年は大連時報で既報の通り、福島智先生のお話に感じ入るものが多くありました。

私は常々、人間という形も、自然現象も全て親神様の「守護」の賜であり、心だけが、種でありその心の種が、現在のあらゆる現象として生起しているのだと悟らせて頂いております。しかし、その悟りの奥に常に「お前自身が持った種は自分で刈り取るしかないのだから、身ををいただいた一

人一人は深く時いた種に思いを致し、しつかり懺悔することが大切だと考えてきました。その内向的な信仰が「他の人」をもその尺度で評価し始めると「高慢」という埃に行き着きます。しかし、考えてみますと、人間出直しの現象は、誰も障害を受け持つて出直していく存在であり、今現在「耳の聞こえない人」「目の見えない人」は「不自由な人と自然に考えていますが、私たちの「出直し」は目も耳も、そして誰かいるのか?という現実も理解できぬまま、出直していくのが真実だと思います。障害のあるなしと「陽気暮らし」は次元の違う問題であり、「生かされてる」という真実を深く実感できたとき「喜怒哀楽」全てが有り難いこととして受け入れられるのではないかと思っています。と言いつつ毎日埃いっはいの生活に埋もれてしまっているのが実感です。

ミンデレラ?

福満分教会長 福島大介

本年五月十九日。福山分教会に於いて、六代会長就任奉告祭と創立百十周年記念祭が執り行れたときのことだった。参拝者六百名余り。履物の数六百足余り(当然か)。その中に一足残された迷子



の靴。そして、福節分教会より参拝された方の靴が無い。「二十四センチならうちの前会長と同じじゃ。履けそうなのがあったら持って来てあげろ。」えっ。ほんまあ。福節の藤井治喜さんとの会話。そのときはまだ福満からの参拝者が間違つて履いて帰ったとは知らなかった…。八月七日、わたし宛に一通の手紙が届いた。ここにその全文を引用させて頂く。

『迷子かもどる』:「お父さんの靴あったんよ。福山の教会にとどけてあるそうよ。」へえ、現代の奇跡じゃのお。」と娘と会話をした。やがて原爆記念日の前日に靴が返ってきた。福満分教会の縁で知り合ったMさん夫妻との交流が、その暖かく誠実な人柄に惹かれて二十年ばかり続いた。「おちばがえり」だが、歴史的発見を主眼にするからと、一泊の家族旅行にも誘われた。合掌造り、台湾の石の家、天理図書館、参考館などで、文化活動に目を見張った。福山分教会の就任奉告祭への誘いがあった参加した。会場に入るのに、靴の脱ぎ場が広くあった。ものぐさだから入口近くの土間に、ひよいと脱いだ。祭りが終わってから、すうっと履いたらピッタリだったので帰った。家で「間違えとる。」と言われたが、「自分にピッタリの靴だから向こうの人にも合うはずじゃ。えっと値打ちは変わらんじゃろう。」と話は終わった。北京へもベトナムへも、畑仕事の靴ペラ不用の安物靴を雑巾でぬぐうて行ったが、一足

くらいパリッとした靴を持っておらねばと言われ
て、老いては子に従った。面倒くさいので、いつ
も運動靴で済ませるからこんなことが起こる。最
近、娘がふと福満分教会でその話をしたら、その
靴は届けられていて、名乗り出る人を気長に待つ
ている。との事だった。ムネオ・マキコなどの話
が渦巻く中で、律儀な人と、律儀な集団がある。
日本の未来を信じられる力が見えた。一世紀に
わたる教会のぶあつい活動の凝縮したこの一場面
は、忘れられない。

「この手紙を読んで、大変嬉しく思った。と同時
に、「シンデレラみたいな人や。」と思った。すうっ
と履いたらピッタリだった。には思わず笑って
しまった。間違つて履いて帰られたことで却って
このような感動を味わって頂けて、こちらもほの
ぼのとした気分にならせてもらった。

かくして、迷子の靴はそれぞれの持ち主の元へ
。。。めでたし、めでたし。あのとき、靴が無かつ
た福節分教会の方には「迷惑をおかけしたのだ
が、ともかく、シンデレラと同じハッピーエンド
とあいになった。

育てる楽しみ

天場山分教会 仙田 公 男

私がかつて単独布教をしていた頃、ある先輩布



教師が、三才になる男の子を連れて、よくにをい
がけに歩いてきた。その子も楽しそうにパンフレ
ットをポストの中に入れながら歩いてきた。私は
その姿を見ては、「自分も将来、こつこつという風に
なければ。」とよく思ったものである。

私は今、二人の子ともがいる。先輩に倣って、
赤ちゃんのうちから、ベビーカーに乗せてにをい
がけに連れて歩いた。初めはベビーカーに乗って
いるだけ。そのうち自分の足で歩くようになり、
今では親の手伝いをしてパンフレットを配って歩
くようになった。私は、本人が何だか訳がわ
からなくても、にをいがけに慣れさせることが大
切だと思っている。

そうすれば、大きく
なってにをいがけの
大切さを自覚した時、
抵抗なくそれが実行
できるだろうと思う。

私の家は、私が高校
生の時布教所になり、
八年前にやっと教会
になった。小さい頃は、講社があったので、手を
四つたいて拝むことべらいは知っていたが、
めったにおつとめをしたこともないし、鳴物に触
れるのも、家が布教所になってから初めてだった。

ある時知人の教会に泊めてもらった時のこと。
そこは夫婦と、上は中学生から下は保育所までの
子ども五人の家族だった。朝づとめでは、会長を

芯に子ども四人が鳴物をつとめ、奥さんと一番下
の子が、下でおつとめをしていた。まなびが終わ
り朝席の時、保育所の子が前に出て、おふでさき
を読んでくれた。私はその光景に感心して後で会長
に聞いてみると、子どもには毎日役割を決めて、
それを順番にさせているとのこと。だから、小学
校の高学年までには、一通りのことができるよう
になっているそつだ。私は「これが縦の伝道か。」
と思った。これも見習わなければならぬ。

又別の話になるが、ある教会の夕づとめに参拝
した時、おつとめの後で、その教会の娘が参拝
者におさづけを取り次いでいた。会長さんも奥さ
んもいるのに「自分でせずに、娘におたすけの実
行できる用木に育てるために、仕込んでいるのだ
な。」と思った。

私は子どもの頃には、おつとめはしなかったし、
にをいがけも知らなかった。おさづけとは生きる
か死ぬかの時に、会長さんから取り次いでもらう
ものと思っていた。しかし自分の子には、これら
の事が特別なことではなく、日常生活の中で普通
に行われるものという認識を植え付けたい。そし
て実働用木になってもらいたいと思っている。勿
論、理想通りに育っていくという保証はないし、
恐らくそうはならないであろう。しかし、何も考
えなしに育てていくよりは、子どもの用木として
の将来を考えて育てていく方が、子どもが成人し
た後に、親として悔いを残すことがないのではな
いか。

八月月次祭祭文

この笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の親心溢れる御恵みによりまして日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 特に今月は学校に通う子供達の夏休みという事もあり子供おちばがえりや学生生徒修養会を通しておちばへとお引き寄せ下さり親の息をかけて下さったばかりでなくその間天氣の御守護を始め少しでも成人出来るようにとお働き下さいました事を御礼申し上げます しかし一方で世界に目を向けてみますと大洪水で多くの人が亡くなったり避難生活を余儀なくされている姿を見るにつけ「たん／＼となに事にもこのよふわ神のからだやしやんしてみよ」とのお言葉が心に浮かび借り物の有り難さを忘れいかに我が身勝手の手で過ごしているかを反省せずにはおれませんが 私共は改めてこの道にお引き寄せ頂いた元一日を振り返り生かされている喜びと感謝の心を強めつつ御恩報じの心でたすけ一条の上に勤め励ませて頂いております その中にも今日の吉日は八月の月次祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同遠近を問わず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達のお歌の唱和と相共に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 皆の真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて来月九月は本部より布教推進強調月間とのお打ち出しを頂いております 月初めには青年会が全分会布教推進週間として月末には全教一斉にいがけデーという事で活動させて頂きますがその青年会笠岡分会では委員新体制の元九月一日に総会を開きその勢いのまま布教推進を図っておりますしにいがけデーではリーフレット全戸配布を目指しすでに動いております 全よふぼくはこの動きに遅れないよう百万軒にいがけで培った実動力をより一層発揮してお互い声を掛け合ってにいがけに邁進させて頂く所存でございます そしてこの活動が単なる行事活動に止まらず成人目指しての日々の活動になるよう勤めさせて頂く覚悟でございます

何卒親神様には皆の真実誠の心をお受け取り下さいましてたすけ一条の上に尚も自由の御守護をお現し下さり人々の心を喜びと感謝の心一杯に立て替え助け合う理によってお望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

10月27日(日)

第78回天理教青年会総会

総会式典

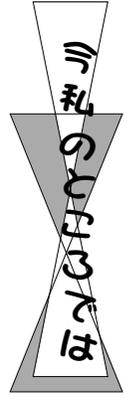
日時 10月27日(日)午前10時

場所 本部中庭

前夜祭

日時 10月26日(土)夕づとめ後

場所 東西泉水プール前広場



我が家のアイドル

おしゃべり椋鳥ムック

久福分教会長 佐藤 憲 美

わが家の「ムック」は、今日もママの炊事の水音と合唱するかの様に、次々に早口で、おしゃべりしています。

「ムック、ジーシテ(じつとして)「アー、ウンチシタ、ハバチィネー(汚いねー)。ウンチシタラ、メート(駄目と)、イッテルデシヨー。ドーシテ、ウンチスルノ。」
「パシヤ、パシヤ、シテ(水遊びして)、キレイ、キレイ、シヨー」
「ムック、カワイィネー」
「ピーチク、パーチク、オシヤベリネエー」
「ムック、オヤスミ」等々

お気付きの様に、世の母親が、赤ん坊に話しかけている時の言葉ばかりしゃべっています。

椋鳥ムックが、わが家の一員になったのは、8年前、広島在住の時でした。ママが平和大通りの並木道を散策中、樹上の葉より落ちたのか、ギャー



ギャーと大口を開け喚きながら鳴いている一羽の雛鳥を見つけ、そのあどけなさど鳴き声に哀れを感じ、持ち帰ったものです。産毛も生え揃わず、目も開けきらぬ雛鳥ですが、直ぐに、餌の支度が必要なので、小鳥屋を訪ねた所、「椋鳥でしょう。摺り餌を与えてやりなさい。」との事でした。以来、「ムック」と命名し、飼育して来ました。

最初の二・三ヵ月間、雛鳥の時の餌やりが、ママの大仕事で、バタバタ暴れながら、ギャーギャー騒ぐ鳥を左手に掴み、「ムック、ジーシテ(じつとして)」と言っては、右手で摺り餌を箸にくっつけて、雛鳥の大きな口へ、一日に十数回やっておりました。餌に満足すると、大人しくなり、目を閉じて、生理現象からか、ママの手にウンチをかけ、眠りに入ろうとします。ママが思わず「アー、ウンチシタ、ハバチィネー(汚いねー)。ウンチシタラ、メート(駄目と)イッテルデシヨー。ドーシテ、ウンチスルノ。」などと餌やりの度に、同じ言葉を繰り返しました。四・五ヵ月経つ頃になると、

灰褐色の成鳥となり自分で摺り餌を啄む様になりました。普段は、本来の鳴き声で、ギャーギャーと鳴いていますが、ある日、台所の水音がすると、突然早口で、何か人間の言葉をしゃべっている様なので、能く聞いて見ると、ママが鳥に話してい

おぢば管内の学生の親睦会

- 日時 10月27日(日) 本部青年会総会後(正午)～17時まで
- 対象 おぢば管内の学生 (高校・大学など)
- 集合場所 笠岡詰所
- 参加費 なし
- 内容 昼食とお楽しみ行事

学生のつとめ

- 日時 11月23日(土) 午前10時～午後3時頃まで
- 対象 学生層 (高校生・大学生・専門学校生など)
- 会場 笠岡大教会
- 内容 学生会・青年会・女子青年の行事紹介、模擬店 (昼食)、グループワーク

る言葉「ムック、ジーシテ(じつとして)」「アー、ウンチシタ、・・・」等々を真似して、しゃべっているのでした。家族全員びっくりし、面白かったので、台所の水音を出しながら、鑑賞したものです。今は、十五べらいの言葉をしやべる様になりましたが、気まぐれ故、なかなかこちらの思う時にしゃべってはくれません。

思うに、幼い頃より、親の愛情に支えられ、繰り返し、繰り返し、自分に話かけられる言葉を聞いて育てば、棕鳥でもしゃべれるようになるものです。

..にをいがけ“も親の深い愛情と繰り返し、繰り返し、根気強く理を説くことが必要だと痛感させられます。

こかん様に続く会 延期のお知らせ

婦人会笠岡支部の諸事情により、9月22・23日に計画しておりました「こかん様に続く会」を、下記の通り延期させていただきます。

日 時	平成14年11月3日(日) 午後4時 開会 ～4日(月・祝) 午後2時 閉会 予定
場 所	笠岡大教会
内 容	支部長様お話、にをいがけ、ひのきしん、会食 他 お楽しみ行事
対 象	中学生・高校生
参加御供	500円

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字～1200字)。

題名・所属教会名・氏名を明記してください。俳句等は1首からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿ください。

郵便：〒714-0066 笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

電子メール：kasaokazaki@rio.odn.ne.jp

なお、原稿はお返しいたしませんので、予めご了承ください。



この時期になると「大祭団体は何所に行くのか？」と聞かれる。今年の大祭には「教祖百二十年祭」が発表されて、論達第二号も配布される大切な大祭！ いいのかな？と思いつつながら、模索している自分が怖い。道中の周辺の名称旧跡に案内しているが、もっネタ切れ！「いま」全教一斉にをいがけ」の句、いっそパンフを団体で配布してみるのも？本来はこうするべきかなあ？そんな事になると、来年から参加する者が無くなるかなあ。お地場でも前夜祭などのお楽しみ行事で待ち受けて下さるのだから、やっぱり必要だろ。秋は初参拝者や新米を供える老人が多いので、歩きの多い所は・・・階段とか坂道は・・・と模索の此の頃であります。先人の話に、京都夜行列車でゴトゴトと、隣席する人に話しかけて「にわいがけ」ならぬ個人調査？で「お前さんは何所の何方？でどこまで行かれるの？」から始まり、ついには家族から親戚まで聞いて、「すき」あれば、「親神様・親さんはなあ」である。そして近くに天理教会があるから行って参拜せよ！などと、また「おたすけ話」で心たすけをする。懐に忍ばせたチラシが教科書に、もう余人でなく先生である。相手は座り合わせた弟子であります。だからお道が伸び栄えたのでしょうか。そう云うパワーが無い私、人の目を気にして何所に行けば・・・なんて・・・御免なさい。せめて、こんな話をパスの中で話し、自他共に勇んでお地場に帰らせて頂くこと決めた初秋の午後です。